

「届かない」という現在地を直視する

- 副業開始済み（まずは動けている）
- 発信継続中（継続の力はある）
- やる気はある
- 反応が薄い**と感じる
- 前進感覚がない**
- 何を書くか迷う**
- 届いていない感覚が強い**

正体は「言葉の軸」の未確定

否定すべき焦り

NOT

努力不足ではない
行動不足ではない

真の課題

ISSUE

言葉の軸が未確定

- △ 相手像が曖昧
- △ 立ち位置が曖昧
- △ 発信意図が分散している
- △ 正解探し状態（外側に答えを求めている）

「誰が、何を、どう言うか」がバラバラになっています

その「準備」は本当に必要ですか？

本質から目を逸らさせる誤解

- × 投稿量を増やせば届く
- × テンプレートを使えば届く
- × 「何をやるか（手法）」を先に決める
- × 資格を先取る
- × 実績を先に作る
- × 言い回しの改善を先にする

停滞の本質は「軸の不在」にあります

芯を固定する「3つの問い」

1. 誰に届けるか



2. 何を助けるか



3. どんな立場で関わるか

- **相手と自分を接続する一貫性**
- **発信の芯**を固定し、ブレをなくす
- **導線の起点**（すべての入口）を作る

軸が決まった後の「新しい景色」

- ✓ **何を書くか**でもう迷わない
- ✓ **言葉選び**が驚くほど軽くなる
- ✓ **発信の一貫性**が読者の信頼を生む
- ✓ 読者にメッセージが**真っ直ぐ**伝わる
- ✓ **肩書き**が自然と作りやすくなる
- ✓ **次の行動**が明確に見えてくる

「空回り」が減り、確かな手応えが生まれる

自分の内側を言語化する 7-STEP

- 1 紙を一枚だけ用意する
- 2 「よく相談されること」を書き出す
- 3 「過去に自分が悩んだこと」を書き出す
- 4 「夢中で話せること」を書き出す
- 5 助けたい「特定の一人」を書く
- 6 その人への関わり方を「一文」にする
- 7 仮の「肩書き」を置いてみる

迷走を止める「言葉整理カード」

この資料の活用シーン

- **発信前の確認:** 軸からズレていないか
- **肩書き作成:** 自分の役割を明確にする際
- **読者再設定:** 反応が変わってきた時
- **導線見直し:** 入口が機能していない時

迷ったらいつでも「現在地」に戻るための目印です。

納得感を持って、一步踏み出す。

YOUR NEXT STEP

- ⇒ 肩書きを一旦「仮決定」してみる
- ⇒ 直近の発信文を軸と照らし合わせる
- ⇒ 届け先（ターゲット）を絞り直す
- ⇒ 関わり方（スタンス）を選び直す
- ⇒ **止まったらこの順番に必ず戻る**

必要な時だけ進む。迷ったら整理する。